



7.6
6297

4-4-5
15
15

1890

后妃考

去味均平藏

7 6
6297

后妃考



上代ハ天皇ノ御母及御祖母等ヲ凡テ皇祖母尊又大御
 祖ト申奉リ御嫡妻ヲ太后ト申シ次ヲ后トシ以テ合セテ美米
 トモ申セリ以ハ古事記日本紀伊豫風土記萬葉集法王帝說等ニ見エ古事記
 傳歷朝詔詞解ニ委ク辨說有テ別ニ引出ルカ如シ

其後大寶令ノ御制ニ至テ皇祖母尊ヲ太皇太后マタ太皇太妃
 大皇太夫人ト云太后ヲ皇后中トナシ后ヲ妃二人四品以上夫人三人
 皇太后皇太妃皇
 太夫人ト云大后ヲ皇太后中トナシ后ヲ妃二人四品以上夫人三人
三位嬪四人五位以上ト定メ賜フ以ハ公武令及義解朝野群載
 又記傳玉勝間ニ據テイフサテ上代ハ勿論
 令條マテ尊卑ノ名分甚嚴正ニ太后即皇
 后ハ皇親神子ニ非スレテ
 立賜フ例ハ曾テ有ル事ナシ以モ記傳詔詞解ニ委ク
 見エテ別ニ引出ルカ如シサルヲ以藤原氏ヨリ
 皇后ニ立賜フ例ハ聖武天皇神龜六年八月淡海不比等公ノ御女
 安宿媛ヲ立タマヘルニ始リテ其詔詞ニ仁德天皇皇后伊波乃比

賣命ヲ先例トシテ今米豆良可ナル事ニハ非ズトハ有ド詔
詞解ニ以ハ實ニイトメツラカナル事也シ故ゾト委ク論ヘル
カ如シサレド一説ニ以ハ實ニ皇后ニ立給ルニハ非ジトモ論ヘル如ク實ハ贈皇
后ニテ有ケムモ亦知ルベカラズ云道又謹テ按フニ以比賣命ハ日本紀
ニテハ孝元天皇五世孫王ニ坐シ古事記ニテハ四世王ニ當給ヘハ正ク臣列トハ定メカ
キ事ナリマタ淡海公モ實ハ天智天皇ノ御子ナルコト祭主補任帝王編年記玉海
源平盛衰記等ニ證アリ伴信友カ松のふぢぢみニモ委キ考ヘアリテ凡庸ノ家ニハ
非ル也此ノ外天壽國曼陀羅銘文ニ堅塩媛ヲ大后トアレド書紀ニ妃トアレバ誤ナル
事論ヲ待タサテ右ノ中ニ太皇太后皇太后等此謂ユル三后
タルナリ

ト申ス稱ハ文武天皇ノ夫人宮子娘ヲ後ニ太皇太后ニ聖武
天皇ノ皇后安宿媛ヲ後ニ皇太后ト為給フヨリ起リテ後世
其稱ヲ長ク用賜ヘルヲ太皇太妃皇太妃ハ史典ニ曾テ見エ又
ヤウニ覺エタリ皇太夫人モ神龜元年宮子夫人ニ始リテ醍醐
天皇ノ御世比マデ稱セル也サテ中宮トハ元皇宮ヲ申ス稱ト近藤芳
樹ノ校本職原抄ノ別記ニ説リ
令ニハ右三宮トモニ然申セルカ聖武天皇桓武天皇ノ御世ヨリ

別ニ御實母皇太夫人ヲ稱シ賜フ事ト成リ延喜ノ比マテ皇太
夫人ノ異稱ノ如ク成レリシ也此ハ續日本紀類聚國史中右記大鏡マタ
職官志ニ見エテ別ニ抄出セルカ如シサレ
ハ右三宮中宮ヲ四宮ト申シ三宮職中宮職ヲ四職トイフ事モア
リシナリ

マタ准三宮ト云稱モ清和天皇貞觀二年藤原忠仁公基經
ニ賜ヘルニ始リテ後以テ女御ヲ初メ親王法親王及諸公卿
ニモ寵賜セル例ト成レリ

サテ桓武天皇仁明天皇御世比ヨリ女御更衣トイフ稱始アリ
續日本後紀類聚國史本朝事始皇代記
河海抄等ニ見エテ別ニ抄出セリ清和天皇光孝天皇御世比ヨリ
御息所元女御更衣ノ皇子皇女ヲ生坐シテイフ稱ナルヲ又別種トナリテ祭花物語
ニ女御息所ト多ク并ベイヒマタ以カカタ御子生給ヘルモアリニコ
生レ賜ハ又御息所トチモアマタ侍ヒ給フト見エ又太上天皇東宮トモニ女御御息所マシ
後ニハ親王ニモ御息所ト申セル也
ト云カ見エテ妃夫人嬪ノ稱ハ大抵聞エヌカ如シ猶稀々ニ妃ト申ス
ハアリ

カクテ女御ハ令ノ妃ニ當リ更衣ハ夫人嬪ニ當ルベシ此ハ玉勝間ニシカ見エ國史ニ仁
和三年二月十六日勅以更衣後五位上藤原朝臣元善ニ為女御ト有テ始メ茶花物語ニ
徴有テ更衣ヨリ女御ハ尊々女御ヨリ中宮皇后ニ進給ヘルヲ見テ知ルヘシ
サハ論ヘド延喜式小野宮年中行事ニ妃夫人嬪女御ト次テラレ
タレハ全廢ラレシニハ非ルナルヘシマタ平城天皇ソノ後村上天
皇御世比ヨリ尚侍サテハ典侍掌侍ヲ御ス事モ見エタリ

令條ニハ典侍四人掌侍四人禁秘御抄トアリテ元女官ニテ寢侍ニハ六人
スル宮人ニハ非ス故ニ他ノ公卿ニ嫁セラレシモアリサテ祿令ニハ
尚侍准從五位一典侍准從六位掌侍准從七位トアルヲ國史
三代格ニ大同二年ヨリ尚侍ヲ從三位典侍ヲ從四位ニ掌侍
ヲ從五位ニ定給ヘル也延喜式モ同シサテ延喜天曆御代ニ尚侍等ヲ
從二位ニ叙シ給ヘル事モ見エ禁秘御抄ニ尚侍是大畧可准
更衣等一近代又絶畢ト勅給ヒ女房官品ニ内侍ノカミ權柄

御娘ナドマイルトアリ

マタ醍醐天皇村上天皇御世比ニハ皇后ヲ即中宮トモ申シテ
御生母ヲ尊ミテ即皇太后ト為給フ事ト成リ此ヨリ皇太夫人
ノ稱ハ止ヌ圓融天皇御世ニ嬪子ノ皇后崩後ニ遵子中宮ヲ立
賜ヒ此ハ御一代ニ皇后中宮ト申ガ有シ一條天皇御世ニソ定子ノ皇后
彰子ノ中宮トニ宮并立賜フ例ハ始リケル此根政道長公ノ私意ニ出タル事古先ノ説アリソモ早ク北畠
殿ノ并置ニ宮太死其御母詮子皇太后ヲ東三條院ト尊號上ラレ
テヨリ女院號始マリ正曆二年九月十六日ノ事也其後同御門ノ彰子中宮ノ大皇太
后ト申シテ上東門院ト尊號上ラレテ共ニ太上天皇ニ擬賜フ例
起レリ此ハ後一條天皇萬壽三年正月十九日ノ事ナリ此ヨリシテ門院號ヲ皇后中宮ハ勿論
御嫡母御實母御准母内親王等ニモ授賜フ事ト成リヌマタ
親王東宮ヲ稱シテマタ贈皇太后ハ光仁天皇寶龜二一三年十二月十五
一條院ト申ス事モアリ

マタ敦明親王東宮
ヲ稱シテ一條院ト
申ス事モアリ

日御母紀椽姫ヲ追尊シ賜フニ始リ贈太皇太后及贈皇后ハ平
城天皇大同元年其御祖母高野新笠ノ贈皇太后ト皇妃藤
原帶子ニ追贈シ賜フニ起レリ以等モ別ニ抄出スルカ如シ此ノ他一條天皇ノ御
世ノ初ニ嫡母遵子中宮ヲ尊テ皇后ト爲給ヒ後冷泉天皇
三后ヲ立給フトテ前中宮章子内親王ヲ皇太后ト爲給ヒ後
醍醐天皇ノ皇妹辨子内親王ヲ皇后ト稱ヘ給ヘル等ハ皆一時
ノ權宜尊號ト知ラレタリ又尚藏御匣殿女藏人ナドイフヲ御
シタル事アルモ永制ニハ非ルナリマタ皇子東宮ニ立給ヘハ御母ハ皇后ト爲給フ例ノ如クナルニ後二條ノ御門光明ノ御門後龜山ノ御門稱光ノ御門ノ御母ハ然ラスサレド至尊ノ御所生ヲ今ハ女院ト稱ヘ申スハイカバナレバ准后及中宮ノ徽号ヲハ復古有ラマホシキ御コトナリサテ近御代ト成リテハ更衣御息所尚侍女院小傳ニ萬統門院顯子乾元ニ
年三月爲後二條尚侍トアリナドハ見エズシテ又皇后中宮并立給フコ
此後モ見エシニヤ未ダ考ズトモ止ニ皇后坐セバ中宮ナク中宮立給ヘハ皇后ナシ此ハ古制ニ

復リシ也典侍四人

一ヲ大典侍ニ姓ヲ加テ典侍或云新大典侍其三四ヲ中納言典侍宰相典侍等ト稱ス

次ニ掌侍六人

正四人權二人第一ヲ勾當内侍マタ長橋トイヒ次ヲ姓ヲ加ヘテ某内侍ト稱フ今條ニ不得奏請宣傳ト有レド後ハ然ラス符宣抄ニ仁和元年九月ノ宣ニ掌侍春淵朝臣洽子召仰所司之宣旨宜准典侍宣而奉行トアルハ古クヨリカクノ如シ

ト爲賜ヘリケニ伺奉ラル、也

サレド近代ノ御事ハ委ク記セル物モ見エサレハ傳聞ノ誤モ多クアルベシ

質スベシ

大寶令有テ後ニ上代ノ御制ノマ、ニ皇親

ヲ皇后皇妃ニ立賜ヘルハ光仁天皇淳和天皇陽成天皇

妃綏子光孝天皇妃班子朱雀天皇妃熙子冷泉天皇後

内親王朱雀天皇後冷泉天皇堀河天皇二條天皇

後宇多天皇後醍醐天皇光嚴天皇妃壽子東山天皇

光格天皇ニ坐シ其他ハ橘氏平氏源氏三度ノミニテ大抵藤

原氏ヨリゾ皇后ヲ奉ラル、例ノ如クゾ成レリケル然ハ有レ

ド右ノ四氏トモニ皆派ヲ天潢ニ分チシ皇胤ニ非ルハナシ此

上代ヨリ神聖ノ御血脉ヲ重ニシ賜ヘル神教古風ニテ畏ケ
 レド赫々トシテ日月ト光明ヲ比ベ天地ト窮極ヲ同シ給フ皇
 統ニ坐セバ實ニ然マスベキ道理ナリ是ヲ以テ右ニ申シ歷
 聖ニハ不世出ノ明皇ノ御座テヨク古道ヲ順考シ賜ヒ或ハ
 亂ヲ撥ヒ正ニ反シ天業ヲ既ニ地ニ墜土ムトスルニ中興シ給ヒ或
 ハ廢ヲ起シ絶ヲ繼テ大道ヲ漸泯滅スルニ匡復シ給ヘルハ
 豈偶然ノ故ナラムヤ蓋煌々タル天祖皇祖在天神靈ノ宇
 内兆氏ヲ寵幸シテ此ヲ仁壽ノ域ニ躋サシメ古ヨリ謂ル大人君
 子國ノ名ニ背シメジト思召ス深仁大澤ノ睿慮ニ因ケンコト
 更ニ蔡龜ニ問マデモナクヨク觀察奉テレテナムアナカシコ

明治十八年十月

平 玄道 謹記



上代制

太后 天子之嫡妻
 皇胤 ニ限ル
 后 ニ大后者

總稱ニ美米

大

太皇太后 又大皇太妃 大皇太夫人
 皇后 天子之正妻

皇太后 又皇太妃 太夫人 天子之祖母

寶 令 制

皇胤ニ限ル聖武天皇以下皇胤ナラサル外戚ノ女ヲ
立テ玉フ事アリ

醍醐天皇以下中宮トモ申シ一條天皇ノ時ヨリ皇
后中宮ニ宮并立ラル

妃二人 四品以上

夫人三人 三位以上

嬪四人 五位以上

桓 武 天 皇 以 下

女御 妃ニ當ル

更衣 夫人嬪ニ當ル

御息所

女御ニシテ皇子皇女ヲ
生ミタル者ノ稱

平城天皇以下尚侍典侍掌侍等ヲ御シ玉フコトアリ
ト雖モ定制ニアラサレバ記サズ

醉法

女法

夫人法



